

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和7年12月(2025年) No.720

会長就任暦30年 時代が若返りを求めている

OMC 会長 合原一夫

OMC ニュースの過去を振り返ってみると、No.360号・平成7年12月号(1995年)に、私の新会長就任挨拶文が表紙を飾っていました。あれから30年、OMC ニュースは令和7年12月号で720号を数えます。ちょうど就任時のニュース番号の2倍になります。

前会長の小倉宝蔵さんは8ミリ時代の最後の人でした。ケニア、タンザニアの大平原を訪ねて、野生動物をよく撮って来られました。このころの会報を見ると、例会場をホテル・アウテナ大阪から阿倍野市民学習センターに移し、機械の準備上、フィルム作品をやめてビデオ作品に絞った例会運営をはじめています。

あれから30年、会員数もほぼ変わりなく20名前後を抱え、公開映写会開催も会報発行も休むことなく継続してまいりました。もっとも会員諸氏には亡くなった人、退会した人もある反面、新しく入会された方もありますが、全会員が協力し合って例会や企画を盛り上げていこうとの精神は受け継がれてきました。

一方、時代の変化でデジタル化が進み、撮影機材、編集環境の目まぐるしい変化に、私の様な高齢者はついていくことが難しい人も出てきました。また高度な知識を要する技術を要求される作業も出ています。従って、特定の人に頼るのではなく、病気や事故の折も代理が出来るような複数体制の必要性も感じています。

こうした新しい流れに対応し、会を円滑に継続していく為の新体制を来年から実施したいと思えます。私の時代はここで一旦けじめをつけさせて頂き、陰ながら応援する方に回りたいと存じます。新会長を岡本至弘氏にお願いし、新体制づくりに骨折って頂きたいと思えます。会員の皆様今後とも、OMC発展の為ご協力のほどお願い致します。

12月例会のご案内

- 第3土曜日20日13時より開催。来年度の年会費(1万円)を用意して来てください。いつもより1週間早くなっていますのでご注意ください!
- 世話役会; 例会日の10時から。部屋は受付で確認してください。
- 12月13日(第2土曜日)13時30分~; OMC幹事会(世話役で作家連会員の方)
①来年度の役割分担について ②作家連大阪総会対策について ③その他
- 令和8年1月24日(第4土曜日)1月例会は総会、例会の後、新年宴会を予定して居ます。詳しくは12月例会で説明があります。

令和7年度を振り返って

会長 合原一夫

今年、令和7年も終わろうとしています。わが OMC も例年通りつつがなくすべての行事をやり遂げてまいりました。本年度亡くなられたのは西村光雄会員、パソコン扱いなどハード面に詳しい方で、私も随分と助けて頂きました。かねてより病弱で、ほとんど例会にご出席がかなわなかった方で、お顔も存じ上げない会員さんも居られるとは思いますが温厚な方で作品創りも上手な方でした。中津ビデオクラブの会長さんでもありました。改めてご冥福をお祈りいたします。

今期の新入会員は、京都亀岡市にお住いの中川晃さんでした。8月から例会作品を持参されており、これからが楽しみな方です。

恒例の課題コンテストのお題は「明」でしたが、最優秀作品に道下敏行氏の「明日への祈り」が選ばれました。この作品は全国ビデオ映像コンテスト 2025 において、グランプリに続く優秀賞第一位に選ばれております。毎年この課題コンからは発表会に堂々と名をつなげる立派な作品が生まれています。2位の生田幸靖さんの「千本鳥居の明かり」もいい作品でした。

撮影会は5月13・14日、岐阜県関ヶ原にて実施。9名参加で8本の作品出品がありました。この撮影会は懇親会の意味も含めて毎年一泊二日で開催しています。撮影会コンテストの結果は、最優秀賞に宮崎紀代子さん「関ヶ原合戦・歴史の陣地を辿る」が選ばれ OMC フェスティバルにも出品されました。

OMC フェスティバルは布施駅前の夢広場多目的ホールで10月5日(日)開催、65回という節目の記念にと今まで多く来場頂いている40数名の観客の皆さんに記念品(パイロット製フリクションボールペン)を提供いたしました。来場者は100名を超え次回への期待を抱かされました。

例会作品に大阪関西万博関係の物が4月～10月例会で8作品が出品され、行かなかった会員でも雰囲気味わうことが出来ました。万博は大阪ではもう当分ないと思われまますので貴重な記録になると思います。

複数体制の運営にしたい

中川氏が怪我で休んでおられ、上映会ディスクをすでに作って頂いていたので支障がなかったが、万が一、事故などで準備が出来なかったとすれば行事そのものの開催が出来なくなってしまいます。又、発表会の司会も今は毎回岡本副会長に依頼しているが、氏が突然出られなくなったら誰が司会をやるのか、又、ホールの上映機材を扱える会員に万一欠席の場合、他の人で変わりが出来るのか等々。まだまだ特定の人に頼りすぎ



ている面が多くあります。そのため咄嗟の場合でもすぐに対応できるよう複数体制が必要と
感じています。特定の人に頼りすぎて、その人が急逝した為、クラブそのもの、そして波及
して連盟迄解散してしまった例が東京と新潟で起こりました。東京映像連盟会長の鹿島隆雄
氏が突然急逝され、東京アマチュア映像連盟が解散してしまいました。彼の所属する市川映
像クラブの活動にも波及しました。鹿島氏は良く出来た人でほとんどの準備から行事進行迄
をお一人でこなされていたのです。

新潟の河辺氏も、ほとんどお一人で公開映写会の準備から上映会まで熱心にこなされてい
ました。プログラム配布も終わりもうすぐ映写会という時に急逝され、映写会も取りやめ、
新潟映像連盟も解散してしまいました。

これらの例が示すように、特定の人に役割が集中し過ぎて咄嗟の場合に代わりに運営でき
る体制が出来ていないと、クラブや連盟の運営はもろいものです。

そういう意味で、関西、いや全国の雄である我が大阪ムービーサークルの今後益々の発展
の為、複数運営体制を整えていかなければと痛感しております。慣れの問題ですので、まず
は例会運営から勉強方々やっついこうではありませんか。

令和7年11月例会

11月例会は25日13時より開会。今月から会場が3階から4階に変更。面積が広くなっ
たのでゆったり感も。先月に引き続き今月も上映機材に詳しい中川氏が怪我でお休みだった
為、準備に手間取っていたが無事解決して植村氏司会のもと例会を進行された。

- **運営担当**：司会 植村、書記 高瀬、YouTube関係 道下、映写 坪井、江村、
メモリー記録 道下、受付・照明 生田、大久保の各氏
- **出席者**：生田、岩井、植村、江村、大久保、上総、合原、高瀬、坪井、中川晃、
道下、宮崎、森下、山本の14氏

上映作品（今月の書記は高瀬）

1. 高野山 森林鉄道跡 山本正夢 8分40秒 BD

（作者コメント） 紅葉の時期がきたのでハイキングを兼ねて高野山に2日をかけて行きましたが、一部コースが荒れていて苦労しました。

（書記コメント） 高野山森林鉄道跡はハイキングコースとなっている所もあるようだが、映像では崩壊している難所も多いようで、熊出没の心配もあるという。10月例会で江村さんも同じテーマで出品されているが、お二人ともよく行かれたと思う。そんな困難な道程にも関わらず、紅葉やもみじの葉が風に散るシーンなど撮られ、秋の風情も感じられる作品に仕上げられている。



2. EXPO2025 この地球の続きを 生田幸靖 4分59秒 BD

（作者コメント） 10月例会で出品しました「EXPO2025」の映写時間24分を5分に短縮した作品です。

（書記コメント） 構図、アングルとも秀逸な短いカットをBGMに合わせ、テンポ良く編集されていて、大阪・関西万



博のポイントが凝縮されたような作品。しかし、よく観て見るとパビリオンの中の映像がまったくない。万博の「華」がないのに、なぜか万博を満喫したような気分させられる作品です。

3. 西国三十三ヶ所 結願の旅 上総秀隆 10分 BD

(作者コメント) ドキュメンタリ志向の作者が初めて作ったドラマ仕立。三十三ヶ所の最後に滋賀県長浜市と岐阜県いび町を巡礼した女の一人旅。2025年10月撮影。

(書記コメント) 女性一人での西国三十三ヶ所結願の旅という想定。構想は良いし、女性のセリフも結願を果たした後の決意を淡々と語るなど、こなれている。ただ女性が歩いているシーンが、少しは前から撮影したカットもあるが、後ろ姿を追いかけるような撮り方が多く、印象が弱い感じです。それとドラマ仕立とするならラストの女性の顔のアップのようなシネマティックなシーンが途中にも欲しい気がします。



4. 平城宮跡の萩 高瀬辰雄 6分40秒 BD

(作者コメント) 奈良平城宮跡の朱雀門周辺に群生している萩を主体に撮影、編集しました。大極殿を背景にススキを撮ろうと出かけたが、実際は大極殿ではなく朱雀門で、ススキと思っていたのもオチでした。



5. 大原野神社のもみじ 中川 晃 5分58秒 USB

(作者コメント) 大原野神社は京都の洛西にあります。鳥居からの参道や池の周りのもみじは目を見張るものがありました。

(書記コメント) 大原野神社の紅葉を参道、鯉沢の池、鳥居周辺…と、スムーズな移動撮影も取り入れ丁寧に撮影。ナレーションで、この神社が奈良の春日大社から分祀し創設されたことなどが説明されている。分祀に際し、神が鹿に乗ってやって来たという事から、本殿前の狛鹿や鹿の絵馬、手水舎の鹿など至る所に鹿をモチーフとしたものがある。ただし春日大社と違って生きた鹿はいない。大原野神社は京都市内といっても西山の麓でかなり辺鄙な所にあり、10月末から周辺で熊の出没情報が相次いでいる。今年のもみじ撮影には十分注意してください。



6. てまり 合原一夫 11分50秒 DVD

(作者コメント) ガラスびんの中に入っている御殿まりを不思議そうに眺める子供たち。では、どうしてこれを作ったかを、丁寧に教える今は亡き妻。1977年富士全国コンテスト入賞作品。

(書記コメント) ガラスびんに入った御殿まりを不思議そうに眺める子供たちに、その作り方を亡くなられた奥さんが教え



ていかれる。丁寧に順を追って撮影されており、びんに入ったてまりが出来上がってみると、なるほどと納得させられる。いつ頃、テレビで見たか分かりませんが、50年近く前のフィルム作品なのに、てまりの色など鮮やかで、色褪せしていないのは驚きです。

7 采女（うねめ）まつり 道下敏行 12分15秒 BD

（作者コメント） 2025年10月6日（月）中秋の名月の夜に春日大社が主催し、奈良猿沢池で開催された采女（うねめ）まつりを撮影した。采女まつりは采女神社の例祭で采女の霊を鎮め人々の幸せを祈る祭で主に管絃船の儀を中心に幽玄な雰囲気が出る様に撮影した。



この采女祭りは、その采女の霊を慰めるために

（書記コメント） まつりが始まると、三笠山の端から顔を出した大きな名月と船の上での笛の演奏や采女や白拍子に扮した女性たちがオーバーラップして幻想的な雰囲気を盛り上げていく。大きな名月と前方の山との釣り合いに、合成ではないかと思ったが、実写だそうである。管絃船を主体に幻想的な雰囲気を意図して撮影され、現場音が笛の音など単調なだけになかなか難しい面もあるようだが、編集、画面サイズやカットつなぎは、かなり工夫され、狙い通りとなっていると思われる。

8. 行基参り 江村一郎 8分 BD

（作者コメント） 以前の久米田池ではここに来る野鳥がメインでしたが、今回は行基参りのだんじりがメインとなります。奈良時代の僧・行基さん、宗教集団を形成して、近畿地方を中心に貧民救済や治水・架橋などの社会事業に活動した。



（書記コメント） 行基参りは奈良時代の僧侶、行基が築造した久米田池への感謝を込めて久米田寺にだんじりが集まり、参拝する祭事だが、行基とだんじりが即座に結びつかなくて、最初、やや戸惑いを感じたが、時には作者独特のカメラアングルで撮られた映像を取り入れ、だんじりを曳く人々の迫力が伝わってくる作品です。

9. 旅する蝶 浅黄斑 高瀬辰雄 6分20秒 BD

（作者コメント） フジバカマの甘い香りに誘われてやってくる浅黄斑（あさぎまだら）を京都洛西の大原野神社に撮りに行きました。浅黄斑はその名の由来である浅葱色、うすい藍色をした羽根を持つ5～6センチほどの蝶で、秋に日本を南下し台湾、南西諸島へと海を渡り、夏には逆コースで北上する。そのため「旅する蝶」と言われる。この蝶に魅了され、ペンネームを「浅黄斑」とした小説家との関りをリンクさせ編集しました。



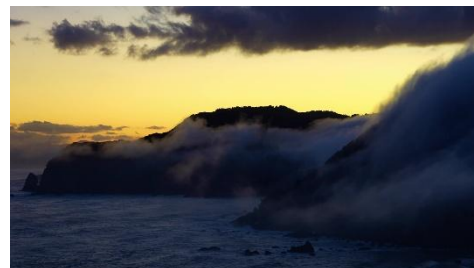
10. 秋桜と蝶と噴水と 生田幸靖 3分57秒 BD

（作者コメント） 京都府立植物園で撮影しました。
（書記コメント） コスモスと蝶と噴水がタイトル通り順番に出てくる。3つの取り合わせの妙と、コスモスと噴水のオーバーラップが印象的。



1 1. 初冬 雲海と嵐 道下敏行 17分39秒 BD

(書記コメント) この10月末からの1ヶ月で竹田城跡にかかる雲海。円山川河口の円山川あらし、福島県裏磐梯のけあらしを撮影した。10月から11月末にかけて気温差が大きくなり早朝に雲海や霧が発生しやすく、竹田城跡へは車中泊で撮影に備えた。円山川あらしは知らない人も多いと思うが、日本三大あらし(愛媛の肱川(ひじかわ)あらし、鹿児島の川内(せんだい)川(がわ)あらし)の一つである。裏磐梯は紅葉時期が遅れていたため、けあらしの撮影に変更した。

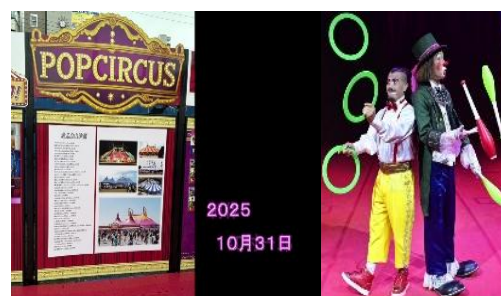


(書記コメント) 竹田城跡の雲海、円山川の川あらし、裏磐梯のけあらし…いずれも自然が織りなす神秘的な素晴らしい映像で見る者を魅了する。いずれも気象条件や時間、撮影場所の選定など、綿密な計画と行動力、撮影における忍耐力がないと出来ない作品。それを短い期間に続けて制作されたのには感服します。いずれも3つの別の作品として、YouTubeにアップされた映像と思われ、それぞれ最初に地図と説明がされている。しかし「初冬 雲海と嵐」というタイトルとするなら、繋ぎを工夫して、一つの作品として見られるようにしてはどうでしょうか。

1 2. ポップサーカス 江村一郎 3分 BD

(作者コメント) 何十年ぶりかでサーカスに行ってきた。東大阪市役所前で来年の1月12日まで開催されます。撮影を許されたのは最後のところだけなので半分はネットからの写真で補っています。

(書記コメント) せっかく何十年ぶりかでサーカスを見に行かれたのに、テント内の撮影が許可されたのはラストのフィナーレだけだったとかで、演技はネットからの静止画で補うほか仕方がない作品ですね。



1 3. 熊野速玉大社 御船祭り 道下敏行 9分5秒 BD

(作者コメント) 2025年10月16日(木)に催された熊野速玉大社の御船祭りを撮影した。御船祭りは熊速玉祭の2日目に熊野川で繰り広げる早船競争で、神輿に乗せた渡御を先導する形で、その早さを競います。早船競争の後、お役所での神事を暗闇の中、撮影した。



(書記コメント) 早船競争に至るまでの神事は早いテンポで、紹介し、早船競争をじっくりと描かれている。早船の漕ぎ手をアップでとらえ、迫力がある。裸の男衆が早船で競争するので、夏の神事かと思ったが、10月半ばなのでね。その後の神事は暗闇の中での撮影だが、この暗さでノイズがなく、神事に携わる人々の姿を描き出しているのは凄い。

